

目次

1.学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
(1) 学生確保の見通し	1
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況.....	3
2.人材需要の動向等社会の要請	4
(1) 人材養成に関わる目的その他の教育研究上の目的	4
(2) 社会的および地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	4

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

1) 定員充足の見込み

農学部生物生産学科は、入学定員を 100 名と定める。

群馬県内における農学部を設置している国公立大学はなく、また東京都と神奈川県を除く関東甲信地区には私立大学の農学部は設置されていない。近隣における私立大学農学系学部の定員は、明治大学農学部(神奈川県)520 人、東京農業大学農学部(神奈川県)540 人、玉川大学農学部(東京都)305 人、日本大学生物資源科学部(神奈川県)1520 人、東洋大学食環境科学部(群馬県)220 人である。

これらの農学系学部における直近 2 年間の一般入試における志願者状況を見ると、2016 年度は 32,059 人が志願しており、合格者は 7,979 人であり、競争倍率は 4.0 倍であった。2017 年度は 30,995 人志願しており、合格者は 7,901 人であり、競争倍率は 3.9 倍であった(資料 1)。18 歳人口の減少が進む中においても高校生の将来の進路先分野としてのニーズは高いと言える。

また、高校生を対象としたアンケートを本学の入学試験会場を設置しているエリア(栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県)で受験実績のある高等学校に対して実施し、50 校 4,944 人から回答を得た。その結果、本学部生物生産学科に合格した場合「入学したいと思う」と回答した人は、入学定員予定数(100 人)の 3 倍以上となる 373 人であった(詳細は下記 2)で述べる)。本学入試広報センターによる広報活動を今以上に展開することで、アンケート未実施の高校においても農学部生物生産学科の特色と魅力が認知され、アンケート結果を上回る志願者および入学者の確保は十分可能であると考えている。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学は、農学部生物生産学科の新設にあたり、高校生のニーズを把握し、学生確保の見通しを確認するために第三者機関である株式会社進研アドに依頼し、高校生アンケート(調査期間:平成 29 年 9 月 20 日～平成 29 年 11 月 2 日)を実施した。(資料 2)

今回の高校生アンケート調査は、入学試験会場を設置しているエリア(栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県)で受験実績、入学実績のある高等学校 50 校で実施し、4,944 人の高校 2 年生(本学が農学部生物生産学科を開設予定の平成 31 年度に大学受験期を迎える者)から回答を得ることができた。回答者の属性であるが、性別は「男性」が 41.6%、「女性」が 58.0%であり、回答者の在籍高校所在地は、本学の学生募集の中心である「群馬県」が 75.0%で最も多く、次いで「埼玉県」9.0%、「長野県」が 8.9%と続いた。

次に高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統を複数回答で調査したところ、「国公立大学に進学」が 50.4%で最も高く、次いで「私立大学に進学」39.0%、「専門学校・専修学校に進学」が 25.5%となり、大学進学を意識している割合が高いことが判明した。

興味のある学問系統は、「看護・保健学」が 26.1%と最も高く、次いで「工学」19.2%、「理学」18.2%であった(いずれも複数回答の結果)。「農学部生物生産学科」と関連のある学問系統でみると「農・水産学」は 10.8%(534 人)であった。「農学系」への高校生の興味関心の低いことは県内の国公立大学 15 校が設置している専門領域は保健医療系が多く、また、群馬大学等など県内国公立大学に農学系の学部が設置されていないことに起因すると思われる。

一方、「農学部生物生産学科」への受験意向について回答を求めたところ、442 人(全体の 8.9%)が「受験したいと思う」と回答した。さらに、「受験したい」と回答した 442 人に対し合格した場合の入学意向について回答を求めたところ、「入学したいと思う」と回答した人は 373 人(回答対象者 442 人の 84.4%)で予定している入学定員(100 人)の 3 倍以上という結果になった。

「農学部生物生産学科」の特色として、アンケート当時からすでに打ち出していた 3 つの特色(課題解決型、生産から流通までの俯瞰的学習、スマート農業への対応)について、その魅力度を 4 段階で評価してもらった。その結果、「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答した合計が 3 項目すべてにおいて約 6 割を占めていた。

なかでも、「農業が盛んで、さまざまな農作物が栽培されている大学近郊の地域と連携し、「生きた農学」を学びます。また、健康・医療・福祉・教育分野の学部学科との学内連携により、課題解決型学習に取り組みます。」に対する魅力度は 63.9%で特色 3 項目の中で最も高い結果になった。次いで「生産、加工、流通、販売という

流れを統合して体系的に学習し、即戦力を養います。」が 61.1%という結果であり、「農学部生物生産学科」の特色に魅力を感じている高校生が多いことを裏付ける結果になった。

3) 学生納付金の設定の考え方

近隣における「農学部生物生産学科」と関連のある私立大学農学部系の学費を(資料3)に示す。入学金を含む初年度の学生納付金合計は、平均で1,698,300円となっている。

農学部生物生産学科は「幅広い農学分野を実践的に学び、これらのニーズに応える実学教育を行い、生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、アグリビジネの4コースを設定して、自然科学領域と社会科学領域を融合しながら、多角的に「食」と「農」にアプローチし、食料・農業分野の課題解決と価値創造に取り組むことのできる有為な人材を養成する」を目的としている。そのため、この教育研究を実践できる体制を構築する必要がある。その上で学生の過大な負担とならないこと、また他大学の学生納付金を参考にしながら、学納金を次のように設定した。

初年度納付金：1,580,000円 (内訳) 入学金：280,000円 授業料など
1,300,000円

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

農学部生物生産学科設置に関するアンケート調査を基に、関東信越エリア、および既存学部の募集活動エリアでもある東北エリアに対する募集広報戦略を策定し、広報活動を行う。

具体的には本学ウェブサイトにおいて特設ページを開設し、コンテンツを充実させ、本学部の設置構想計画について広くアピールしていく。その他、受験生、保護者、高校教員、塾・予備校関係者等、それぞれに向けた情報をまとめたパンフレット、チラシなどを作成し配布する。

さらに高校生や保護者に向けて入試説明会、オープンキャンパス、体験型イベントなどを行うほか、受験雑誌、新聞、WEB媒体に広告を掲載する。また、入試広報センター職員及び入試広報担当教員による高校、塾・予備校訪問や募集エリアにおける本学単独の大学説明会を積極的に開催し、効果的な学生募集活動を行

っていく。このような学生募集の継続により、本学の既存学部・学科の過去4年間の入学者数は、入学定員を割ることなく推移していることから(資料4)、資料2に示した高校生アンケート調査に見られるように農学部生物生産学科においても入学定員を確保できると考えている。

また、自治体や企業との産・学・官の連携の強化を図って、地域の食と農に関わる中心的な研究拠点を目指したいと考えている。このことは本学の存在価値を一層高めることにもなり、学生募集上において優位に働くと考えている。

2. 人材需要の動向社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

生命にとってその存在のためには「食」の安定供給が不可欠であるが、我が国の食と農に関わる諸問題は多岐にわたる。そこで、本学農学部は農学の基礎を幅広く身に付け、柔軟な思考をもって農業に向かい合い、農産物のブランド化や品種の改良、あるいは六次産業化など農業の大きな可能性を具現化し、その魅力を発信できる人材や情報収集力、論理的思考力、実行力を備えて、農業のイノベーションや食に関わる新たな企業形態の創出に貢献できる人材、また世界市場への「攻めの農業」を推進するためにグローバルな視野を有し、同時に地域の農業発展に貢献できるグローバル(Global and Local)な人材を養成することを目的とする。

(2) 社会的および地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

全国有数の農業県といえる群馬県に立地する本学は、次世代の担い手やリーダーの育成、スマート農業や攻めの農業を展開、安心・安全な食の提供など農学分野の様々な課題解決に取り組む有為な人材を養成できる環境下にある。

本学が農学部生物生産学科の人材需要の見通しを確認するために、株式会社進研アドに依頼し、実施した人材需要アンケート調査(調査期間:平成29年9月20日~平成29年11月2日)の結果を示す(資料5)。この調査は、本学農学部生物生産学科卒業生の就職が期待できる機関・団体・企業を対象に計898の企業機関及び団体にアンケート調査を送付し、138件(回収率15.4%)から回答を得た。回答を得た138件の本社(本部)所在地は「東京都」が39.1%と最も多く、次いで本学の所在地である「群馬県」が26.1%という結果であった。回答企業の業種と

しては、「製造業」が最も多く、35.5%、次いで「卸売・小売業」が 31.2%であった。また、従業員数は(正規社員・職員)は「100 名から 500 名未満」が 37.7%と最も多かった。

回答企業の採用状況(過去 3 年)としては平均的な正規社員(職員)の採用数は、「～5 名未満」が 18.8%で最も多く、次いで「10～20 名未満」が 15.9%、「100 名以上」が 14.5%という回答であった。本年度の採用予定数は「昨年度並み」が 50.0%で最も多く、次いで「増やす」が 31.2%という結果であった。

採用したい学問系統は「学問や学問系統にはこだわらない」が 55.1%で最も高く、次いで「農学部生物生産学科」と関連のある「農・水産学系統」が 34.1%という結果であった。

さらに高校生へのアンケートと同様に、本学農学部生物生産学科の特色に対する魅力度を質問した。その結果、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を併せた魅力度は「生産、加工、流通、販売という流れを統合して体系的に学習し、即戦力を養います。」が 88.4%と最も高く、次いで「農業が盛んで、さまざまな農作物が栽培されている大学近郊の地域と連携し、「生きた農学」を学びます。また、健康・医療・福祉・教育分野の学部学科との学内連携により、課題解決型学習に取り組みます。」が 86.2%と高かった。

また、本学が設置構想中の農学部生物生産学科の卒業生に対する採用意向のアンケート調査では「農学部生物生産学科」卒業生を「採用したいと思う」という回答は 78.3%(108 件)、さらに「農学部生物生産学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているかを調査したところ、合計 199 名程度であり、予定している入学定員(100 人)を上回っている。また、本学独自の就職先の開拓活動を展開することで、卒業生の需要はさらに増加すると考えている。さらに、完成年度に併せて大学院の設置を予定していることから卒業生の大学院進学も期待できる。

以上の結果から、農学部生物生産学科の卒業生の人材需要の見通しは明るく、社会からの人材育成の要請の高さ、期待の表れが今回のアンケートからうかがえた。

本学が平成 31 年 4 月に設置を予定している「農学部生物生産学科」は入学定員 100 名を予定しているが、このアンケート調査にて、入学定員の設定に妥当性のあることが裏づけられた。

近隣私立大学農学系学部的一般入学試験状況について

大学名	学部名	年度	志願者	合格者	競争倍率
明治大学	農学部	2016	9,690	1,918	5.1
		2017	9,804	1,863	5.3
東京農業大学	農学部	2016	6,656	1,979	3.4
		2017	7,020	1,757	4.0
玉川大学	農学部	2016	2,947	969	3.0
		2017	3,024	1,018	3.0
日本大学	生物資源科学部	2016	10,925	2,360	4.6
		2017	9,480	2,571	3.7
東洋大学	食環境学部	2016	1,841	753	2.4
		2017	1,667	692	2.4
計		2016	32,059	7,979	4.0
		2017	30,995	7,901	3.9

(旺文社 蛍雪時代 全国大学受験年鑑より)

(資料2)

高崎健康福祉大学
「農学部 生物生産学科」(仮称)
設置に関するアンケート調査
【高校生対象調査】
結果報告書

平成30年1月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2019年4月に開設予定の高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	5,271 (50校)
	回収数 (回収率)	4,944 (50校) (93.8%)
調査時期		2017年9月20日(水)～2017年11月2日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・「農学部 生物生産学科」の特色に対する魅力度 ・「農学部 生物生産学科」への受験意向 ・「農学部 生物生産学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※ 本調査は、高崎健康福祉大学が新たに設置予定の「農学部 生物生産学科」に対する需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、高崎健康福祉大学の主な学生募集エリアである群馬県をはじめ、栃木県、埼玉県、新潟県、長野県に所在する高校の高校2年生(設置年度に入学対象の学年)に調査を実施し、4,944人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が41.6%、「女性」が58.0%。
- 回答者の在籍高校種別は、「公立」が76.6%、「私立」が23.4%。
- 回答者の在籍高校所在地は、高崎健康福祉大学の学生募集の中心である「群馬県」が75.0%で最も多い。次いで「埼玉県」が9.0%、「長野県」が8.9%。
- 回答者の所属クラスは、「理系クラス(理系コース)」が60.5%で最も多く、次いで「その他」が16.8%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が50.4%で最も高い。次いで、「私立大学に進学」(39.0%)、「専門学校・専修学校に進学」(25.5%)と続く。
- 回答者の興味のある学問系統は、「看護・保健学」が26.1%で最も高い。次いで、「工学」(19.2%)、「理学」(18.2%)が高い。「農学部 生物生産学科」と関連のある学問系統でみると「農・水産学」は10.8%。

高校生対象 調査結果まとめ

「農学部 生物生産学科」の特色に対する魅力度

- 「農学部 生物生産学科」の特色に対する魅力度(※)は、3項目全てにおいて約6割。
- 中でも、「農業が盛んで、さまざまな農作物が栽培されている大学近郊の地域と連携し、「生きた農学」を学びます。また、健康・医療・福祉・教育分野の学部学科との学内連携により、課題解決型学習に取り組みます。」に対する魅力度は63.9%で、特色3項目中最も高い。
- 次いで、「生産、加工、流通、販売という流れを統合して体系的に学習し、即戦力を養います。」が61.1%。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「農学部 生物生産学科」への受験意向

- 「農学部 生物生産学科」を「受験したいと思う」と答えた人は8.9% (442人)である。

「農学部 生物生産学科」への入学意向

- 「農学部 生物生産学科」を「受験したいと思う」と答えた442人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は84.4% (373人)で、予定している入学定員(100人)の3倍以上である。

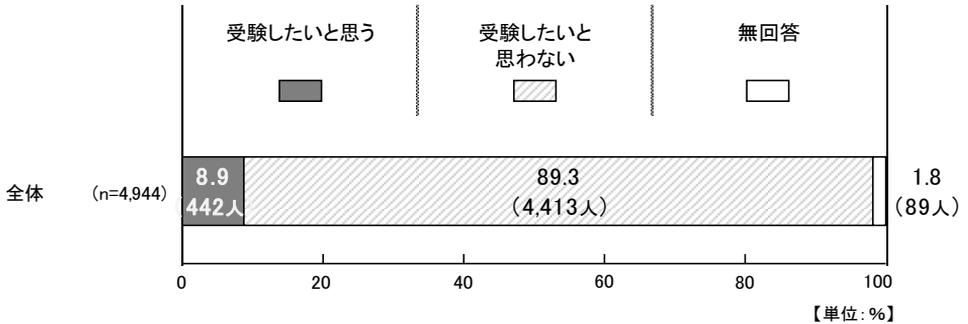
高校生対象 調査結果



「農学部 生物生産学科」への受験意向／入学意向

■「農学部 生物生産学科」への受験意向

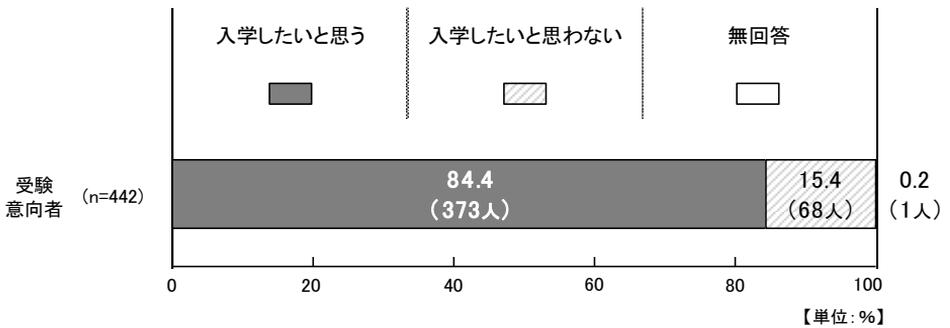
Q4. あなたは、高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）



「受験したいと思う」と答えた442人のみ抽出

■「農学部 生物生産学科」への入学意向

Q5. あなたは高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）

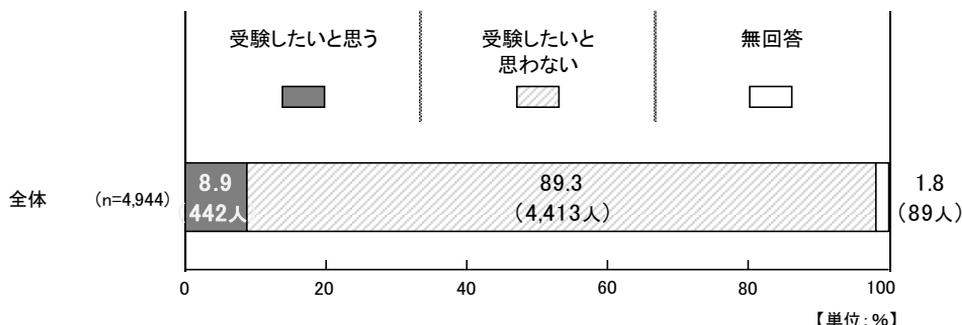


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた442人の回答

「農学部 生物生産学科」への入学意向

■「農学部 生物生産学科」への受験意向

Q4. あなたは、高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）



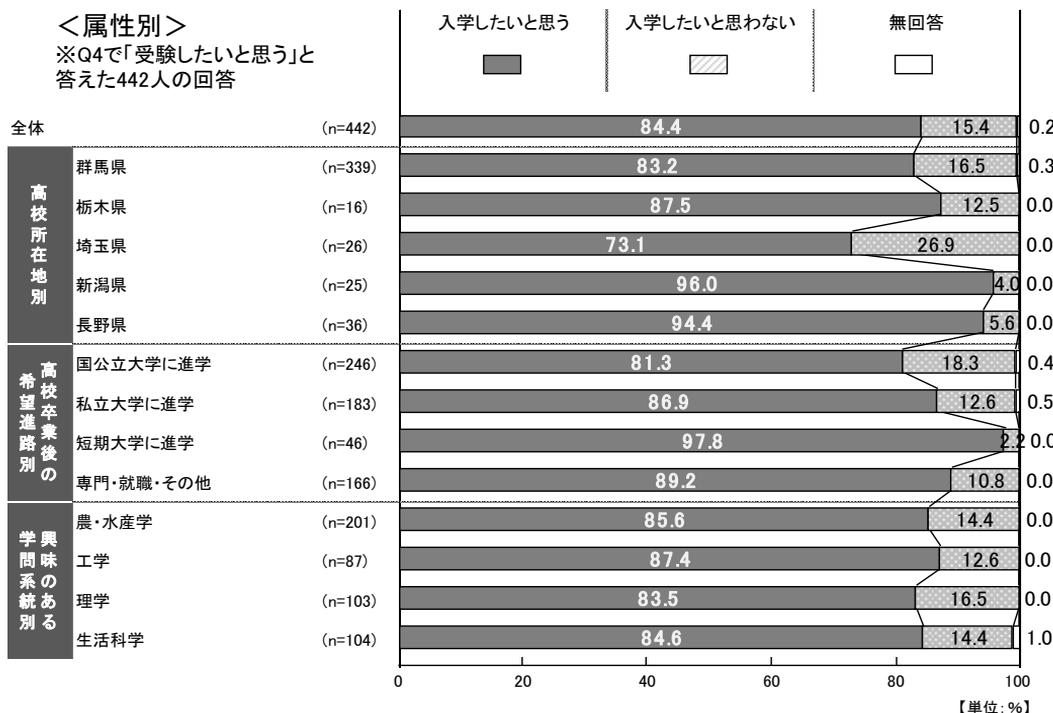
「受験したいと思う」と答えた442人のみ抽出

■「農学部 生物生産学科」への入学意向

Q5. あなたは高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）

<属性別>

※Q4で「受験したいと思う」と答えた442人の回答



卷末資料 調查票



高校生対象 調査票

17004

高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

高崎健康福祉大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2019年(平成31年)4月に、新しく「農学部 生物生産学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A.	農業が盛んで、さまざまな農作物が栽培されている大学近郊の地域と連携し、「生きた農学」を学びます。また、健康・医療・福祉・教育分野の学部学科との学内連携により、課題解決型学習に取り組みます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B.	生産、加工、流通、販売という流れを統合して体系的に学習し、即戦力を養います。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C.	超省力化や高品質生産等を可能にする「スマート農業」を確立するため、ICTなどの先端技術や、さらに農業分野のビックデータ活用を視野に入れた知識の蓄積にも取り組みます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4. あなたは、高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 受験したいと思う 受験したいと思わない

Q5. あなたは高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 入学したいと思う 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

近隣私立大学農学系学部の学費について

(単位：円)

大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	実習費等	諸会費	その他	初年度納付金	4年間の納付金	備考
			初年度				毎年				
明治大学	農学部	農学科	200,000	1,174,000	312,000	80,000	12,000	3,000	1,781,000	6,584,000	
明治大学	農学部	農芸化学科	200,000	1,174,000	312,000	80,000	12,000	3,000	1,781,000	6,584,000	
明治大学	農学部	生命科学科	200,000	1,174,000	312,000	80,000	12,000	3,000	1,781,000	6,584,000	
明治大学	農学部	食料環境政策学科	200,000	1,065,000	307,000	40,000	12,000	3,000	1,627,000	5,957,500	
東京農業大学	農学部	農学科	270,000	760,000	230,000	180,000	32,800	25,600	1,523,400	5,232,600	初年次校友会費 25,000円
玉川大学	農学部	生産農学科	250,000	1,035,000	250,000	275,200	44,000	0	1,854,200	6,594,800	
玉川大学	農学部	環境農学科	250,000	1,035,000	250,000	275,200	67,000	0	1,877,200	6,962,800	
玉川大学	農学部	先端食農学科	250,000	1,035,000	256,800	277,300	44,000	0	1,863,100	6,630,400	
日本大学	生物資源科学部	生命農学科	260,000	1,050,000	200,000	150,000	10,000	0	1,670,000	5,900,000	
日本大学	生物資源科学部	生命科学科	260,000	1,050,000	200,000	150,000	10,000	0	1,670,000	5,900,000	
日本大学	生物資源科学部	食品ビジネス学科	260,000	850,000	170,000	100,000	10,000	0	1,390,000	4,780,000	
日本大学	生物資源科学部	食品生命学科	260,000	1,050,000	200,000	150,000	10,000	0	1,670,000	5,900,000	
東洋大学	食環境学部	食環境学科	250,000	990,000	260,000	80,000	10,000	0	1,590,000	5,610,000	
平均			239,231	1,034,000	250,754	147,515	21,985	2,892	1,698,300	6,093,854	

過去4年間の入学定員超過状況について

学部等名	項目	29年度	28年度	27年度	26年度	平均入学定員超過率
健康福祉学部 (合計)	入学定員超過率	(1.05)	(0.98)	(1.07)	(1.13)	(1.05)
	入学者数	222	207	226	238	
	入学定員	210	210	210	210	
医療情報学科	入学定員超過率	(1.07)	(0.87)	(0.90)	(1.25)	(1.02)
	入学者数	75	61	63	88	
	入学定員	70	70	70	70	
社会福祉学科	入学定員超過率	(1.00)	(1.03)	(1.25)	(1.11)	(1.09)
	入学者数	60	62	75	67	
	入学定員	60	60	60	60	
健康栄養学科	入学定員超過率	(1.08)	(1.05)	(1.10)	(1.03)	(1.06)
	入学者数	87	84	88	83	
	入学定員	80	80	80	80	
薬学部 (合計)	入学定員超過率	(1.05)	(1.06)	(1.08)	(1.11)	(1.07)
	入学者数	95	96	98	100	
	入学定員	90	90	90	90	
薬学科	入学定員超過率	(1.05)	(1.06)	(1.08)	(1.11)	(1.07)
	入学者数	95	96	98	100	
	入学定員	90	90	90	90	
保健医療学部 (合計)	入学定員超過率	(1.12)	(1.12)	(1.14)	(1.11)	(1.12)
	入学者数	157	158	160	156	
	入学定員	140	140	140	140	
看護学科	入学定員超過率	(1.15)	(1.07)	(1.10)	(1.12)	(1.11)
	入学者数	115	107	110	112	
	入学定員	100	100	100	100	
理学療法学科	入学定員超過率	(1.05)	(1.27)	(1.25)	(1.10)	(1.16)
	入学者数	42	51	50	44	
	入学定員	40	40	40	40	
人間発達学部 (合計)	入学定員超過率	(1.11)	(1.23)	(1.05)	(1.13)	(1.13)
	入学者数	89	99	84	91	
	入学定員	80	80	80	80	
子ども教育学科	入学定員超過率	(1.11)	(1.23)	(1.05)	(1.13)	(1.13)
	入学者数	89	99	84	91	
	入学定員	80	80	80	80	

(資料5)

高崎健康福祉大学
「農学部 生物生産学科」(仮称)
設置に関するアンケート調査
【企業対象調査】
結果報告書

平成30年1月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2019年4月に開設予定の高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」の新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		山形県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	898件
	回収数 (回収率)	138件 (15.4%)
調査時期		2017年9月20日(水)～2017年11月2日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・人事採用への関与度
・本社所在地
・業種
・従業員数
・正規社員の平均採用人数
・本年度の採用予定数
・採用したい学問系統
・「農学部 生物生産学科」の特色に対する魅力度
・「農学部 生物生産学科」の社会的必要性
・「農学部 生物生産学科」卒業生に対する採用意向
・「農学部 生物生産学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※ 本調査は、高崎健康福祉大学が新たに設置予定の「農学部 生物生産学科」に対する人材需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、高崎健康福祉大学卒業生が就職している、もしくは就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、138件から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は20.3%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が65.9%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、「東京都」が39.1%で最も多く、次いで高崎健康福祉大学の所在地である「群馬県」が26.1%。
- 回答企業の業種としては、「製造業」が最も多く35.5%。次いで、「卸売・小売業」が31.2%と続く。
- 回答企業の従業員数(正規社員・職員)は、「100名～500名未満」が37.7%で最も多い。

回答企業の採用状況(過去3か年)

- 回答企業の平均的な正規社員(職員)の採用数は、「～5名未満」が18.8%で最も多い。次いで「10～20名未満」が15.9%、「100名以上」が14.5%。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が50.0%で最も多い。次いで「増やす」が31.2%。
- 回答企業の採用したい学問系統は、「学部や学問系統にはこだわらない」が55.1%で最も高い。次いで、「農学部 生物生産学科」と関連のある「農・水産学系統」が34.1%と続く。

企業対象 調査結果まとめ

「農学部 生物生産学科」の特色に対する魅力度

- 「生産、加工、流通、販売という流れを統合して体系的に学習し、即戦力を養います。」が88.4%で最も高い。次いで、「農業が盛んで、さまざまな農作物が栽培されている大学近郊の地域と連携し、「生きた農学」を学びます。また、健康・医療・福祉・教育分野の学部学科との学内連携により、課題解決型学習に取り組めます。」(86.2%)が高い。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「農学部 生物生産学科」の卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- 「農学部 生物生産学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は78.3% (108件)であり、予定している入学定員(100人)を上回っている。
- 「農学部 生物生産学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた108件に対し、「農学部 生物生産学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聴取したところ、合計は199名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

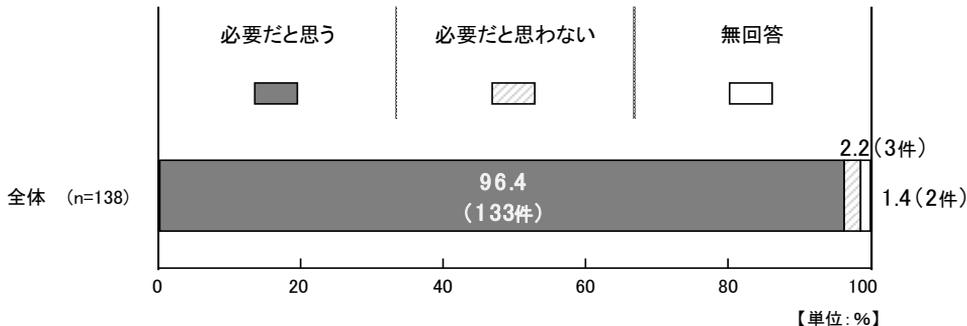
企業対象 調査結果



「農学部 生物生産学科」の社会的必要性／ 卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

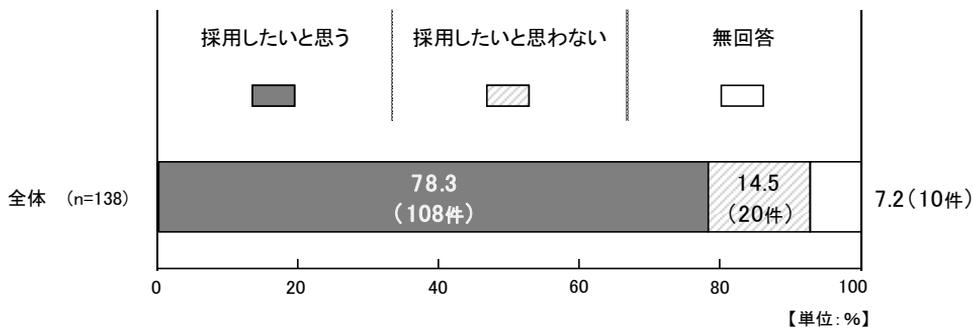
■「農学部 生物生産学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)はこれからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



■「農学部 生物生産学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)



「農学部 生物生産学科」卒業生を
「採用したいと思う」と答えた108件のみ抽出

■「農学部 生物生産学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。(あてはまる番号1つに○)

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名以上	人数は未確定	無回答
全体	%	16.7	9.3	6.5	0.9	6.5	3.7	56.5	0.0
	件	18	10	7	1	7	4	61	0

毎年の採用想定人数・計※(名)
199

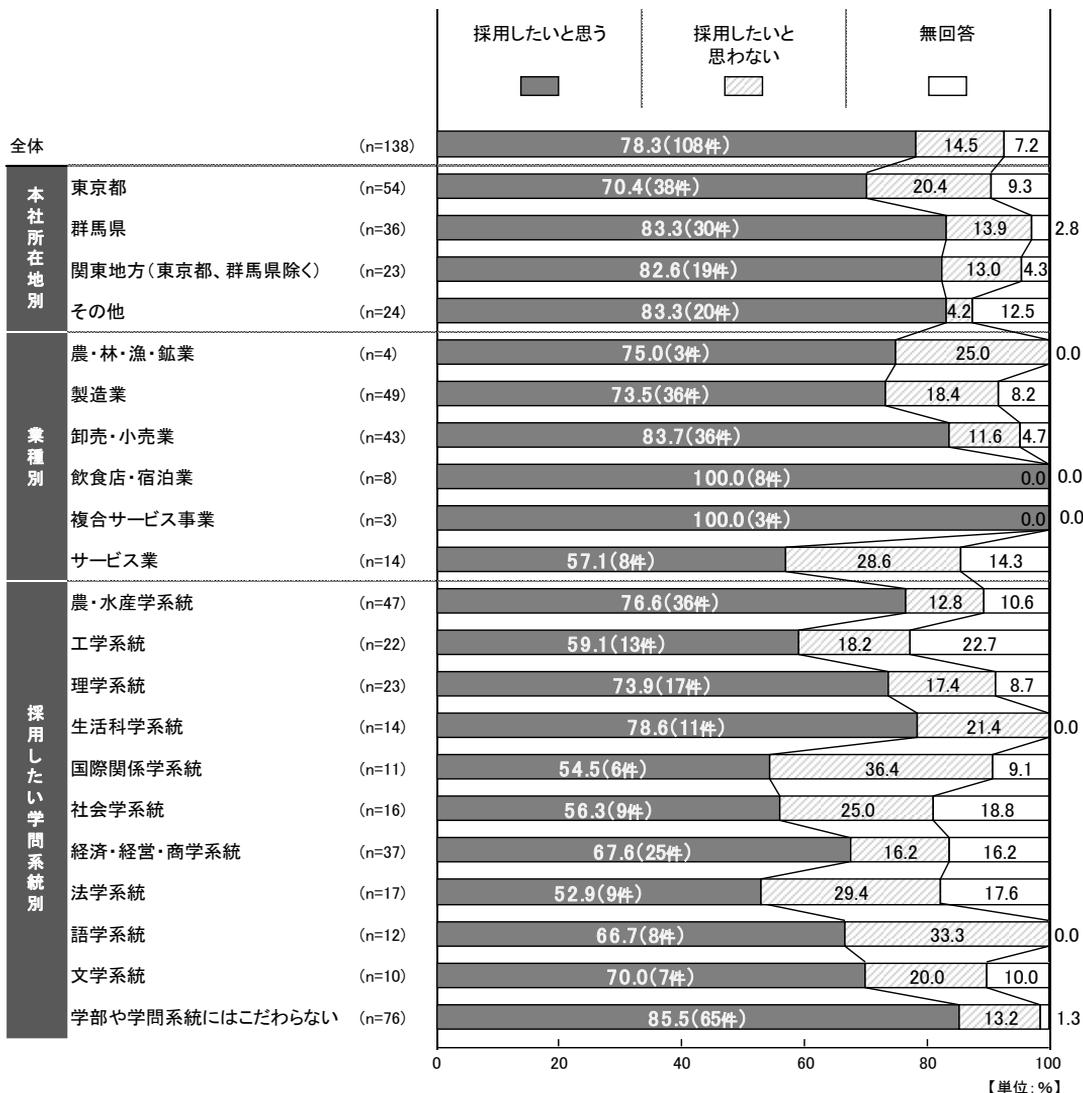
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

「農学部 生物生産学科」卒業生に対する採用意向 ＜属性別＞

■「農学部 生物生産学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、高崎健康福祉大学「農学部 生物生産学科」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（あてはまる番号1つに○）

＜属性別＞



卷末資料 調查票



企業対象 調査票

高崎健康福祉大学『農学部 生物生産学科』に関するアンケート

高崎健康福祉大学では2019年(平成31年)4月より、「農学部 生物生産学科」(仮称)を新設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「農学部 生物生産学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートご回答者の人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------------------|------------------------------------|
| 1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている | 3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある |
| 2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている | |

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員(職員)の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均

名程度 ※アラビア数字(1,2,3・・・)でご記入ください。

Q6. 貴社・貴団体の本年度における新規大卒者の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------|--------|-----------|
| 1. 増やす | 3. 減らす | 5. 採用予定なし |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 | |

裏面へ続く→

